

ISSN 0910-2396

野鳥たより

—北海道—

第 92 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 5 年 6 月 21 日

ベニバラウソ

天売島

91. 10. 30



撮影者

遠藤幸子



もくじ

私の探鳥地 (24) (藻岩山)	山本 一	2
幌別川と野鳥たち	本多 進	3
探鳥会案内		5
総会報告	総務係	6
エゾライチョウ	藤巻裕蔵	8
探鳥会報告		9
編集後記		10

私の探鳥地 (24)

藻岩山

山本 一

札幌市藻岩山の登山口の一つは、ロープウエー線の慈啓会バス停から100mのところ。この山の北東の森は天然記念物となっています。わかり易くいえば、慈啓会ルートの登山道の周辺の森ということになると思います。バス停から5分も歩くと4月の中旬には、ウグイスの囀りも聞えるという自然の豊かな山です。

夏鳥のオオドリ、キビタキも渡来し、その美しさに私などは固唾を呑むばかり。語彙の豊かな女性は双眼鏡を除いて「し・あ・わ・せ！」と代弁してくれます。キビタキの玉を転がすような囀りの期間も、永く楽しみです。

神秘の鳥のクマガラの声も聞えます。運がよければ姿も見えます。エゾライチョウを、自然歩道を歩いていて見たという人が私の他に何人もいます。天敵であるキタキツネが近年へったようですが、そのせいかもしれません。

冬の餌場の豚の脂身には、ケラの類やカラ類がよく集り好んで啄む様子が近くで見られるので、皆様に喜ばれます。

1988年のクリスマスの日、登山者が小動物に餌を与えようとしているのに深い感動を覚え、私もこれに見習って餌場を作りました。餌を啄む野鳥が可愛らしく、給餌に努めているうちに野鳥とすっかり仲良しになりました。

ハシブトガラが「リフト台跡」で私の手乗りになったのは、89年4月25日です。その後誰の手のひらの落花生の微粉末でも、ハシブトガラが手指に掴ったまま続けて啄むようになるまでには、ちょうど2年たっています。ヒガラがこのように手乗りになるには、3年余り経っています。

現在の手乗りの場所は「馬の背」です。ここに初めて

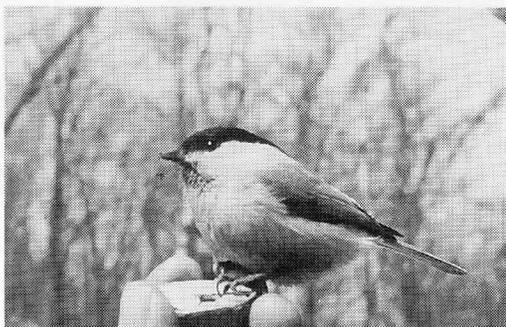
餌場を作ったのは89年11月21日です。目立つように赤いリンゴを吊しましたが、それを見付けて毎日野鳥が集るようになったのは18日後の12月9日からでした。

餌入れの中が空になっていけば、野鳥が集る気配がなくても一年中餌を補給してきました。餌場を完全に撤去してしまうと、再開したときに鳥が見付けにくいことと、天候その他の事情で餌が採れない時のためです。

「馬の背」は自然歩道の分岐点でもあり、野鳥が円山と藻岩山を飛ぶ通路とも言われています。野鳥と登山者の出会いの多いところ。野鳥を認めた人が「可愛いね！」とかいう呼掛け・指差しなどの動作・多くの人が、しばしば餌を差入れするのを野鳥はちゃんと見て、人の気持が野鳥に通じている。それで手乗りになるのだと思っています。

(本会の大先輩である山本さんは、現在大正生れの75才の方です。藻岩山まで野鳥に餌を運んでくださる姿に、敬服致しております。……担当)

〒001 市内北区屯田4条2丁目9-22



ハシブトガラ

幌別川と野鳥たち

本 多 進

「川は、ふるさとの原点」と想っているのは小生ばかりではないと思います。川遊びを通じて、泳ぎを覚え、魚釣り、カニ、エビ、トンボ、バッタ、笹舟、草笛、野鳥等々、子供たちの天国でした。

登別市内を流れる全長15kmの2級河川「胆振幌別川」今、この川に市民の目が集っています。

幌別川は、かつて上流の鉱山から流出した鉱毒のため、瀕死の川となりましたが、1973年の閉山後は、しだいに清流をとり戻してきました。

しかし、中流域に工業用ダムが建設され、下流の水量が著しく減少したり、サケの遡上も全くできなくなりました。更に治水対策として、川底をさらったり、河口の直線化、河川敷内の樹木の伐採等、生きものに対する環境は大きく損われました。

それから10年、川の流れは限られた川幅のなか、自らの意志で蛇行し、瀬やふちを造り、中州ができ、ヨシ原

が発達し、岸辺の灌木も背丈を越す程になりました。

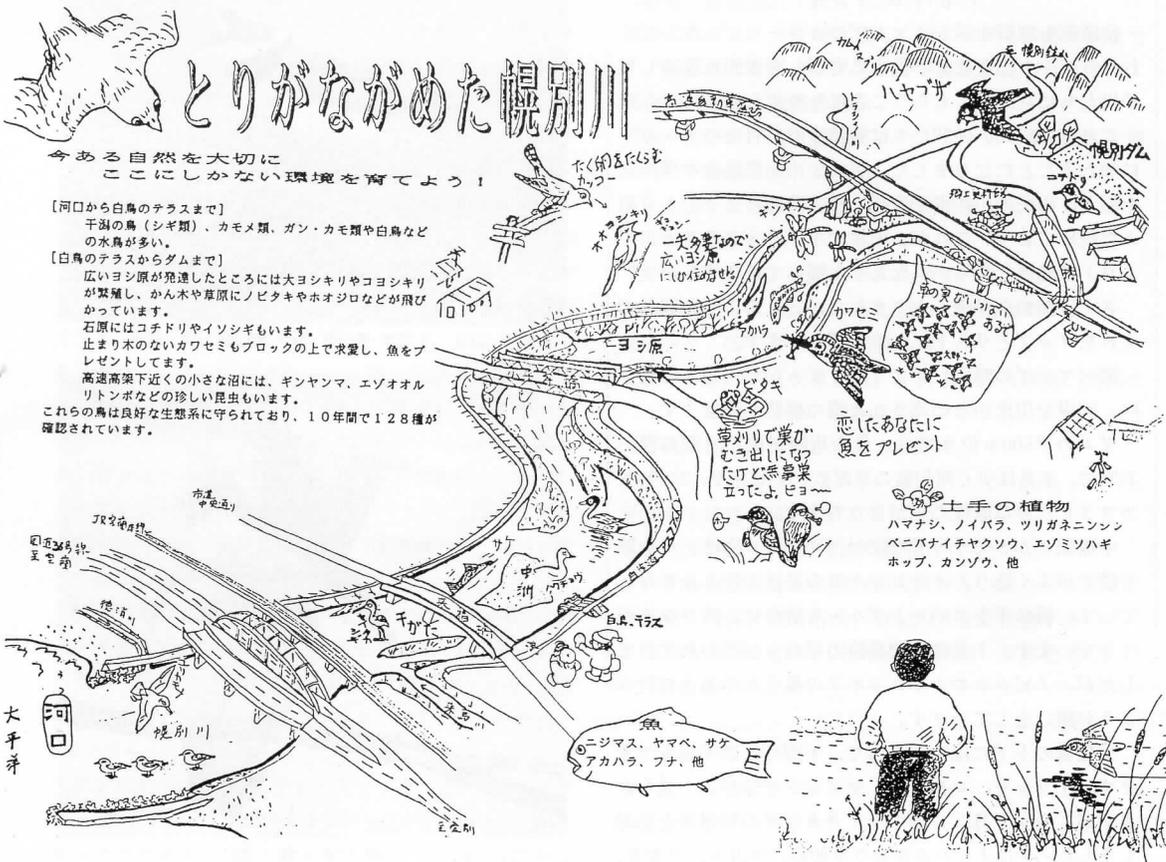
自然が戻ってきたのです。カワセミが行き交い、オオヨシキリは仰々しくわめき、足元の茂みでは、ノビタキの子育て。そして冬、オオハクチョウの群が憩い、市民との交流の場、「白鳥のテラス」が造られました。

魚たちも帰ってきました。ダムの下流で、サケやウグイの産卵も見られるようになりました。

昨年、この川の環境整備計画が報道されました。ダムの下流域を市民の憩いの場として整備しようというものです。

10年来この流域を探鳥の場として親しんできた私たちにとっては、大変気がかりなことです。

そこで、登別在住の仲間が中心となり、役所に要望することになりました。①手始めに幌別川周辺の野鳥生息マップを作ることになりました。縦2.5m幅1mカラーの大作です。10年余の観察をもとに128種が書き込まれ、



この川の周辺は野鳥の宝庫であることをPRする。

②計画の内容を知りたい、③生態系に配慮した整備を望むこと等です。



セイタカシギ

役所側も理解を示し、マップのカラーコピーをしてくれたうえ、1部を教育委員会に寄贈し図書館に展示して子供たちに利用してもらうことになりました。

これらの結果、仲間たちは整備検討委員会のメンバーに加わることになりました。更に、市民探鳥会や講演会を催し、市民の川に寄せる想いがふくらむよう、とり組みを続けており、これが、市民ぐるみの「ふるさと川づくり」に発展したらいいなあ!と願っています。

さて、前おきが長くなりましたが、このような経緯で生れたマップとリストについて要約します。

図(マップの略図)のように、ダムから河口まで約2km、兩岸を川床からの高さ10m程の堤防が続きます。

ダムの下500m位までは、最も川幅が広く水深の浅い石原で、水鳥は少く河川敷の草原に、ノビタキ、ヒバリ、カワラヒワ等草原性の鳥が目立ちます。

中流域にかかる小平岸橋の上下各300m位は、ヨシ原や灌木がよく茂り、オオヨシキリの格好の住みかになっていて、橋の下をコバルトブルーも鮮かに、カワセミが往き交います。7月の中頃堤防の草刈りが行われていましたが、ノビタキやオオヨシキリの巣立ちのあとに行うようお願いをしています。

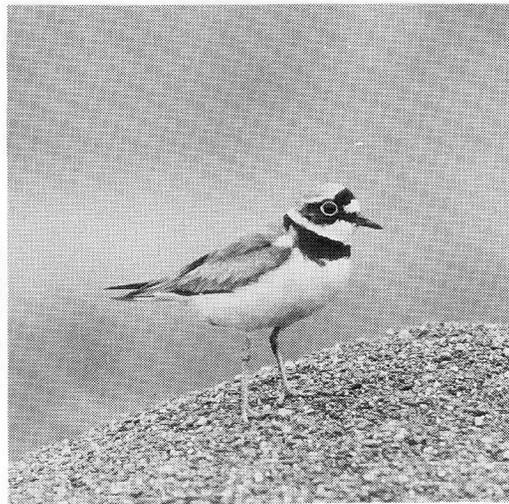
来福橋の上下には中州があり、干潮時には干潟もできます。イソシギ、コチドリ、キアシシギ等がよく見られますが、今年5月、2羽のセイタカシギの初飛来を記録しました。冬はオオハクチョウを初め、マガモ、コガモ、

キンクロハジロ等カモ類も多く、白鳥のテラスでは、市民の与えるパンをカモメと争って採餌しています。

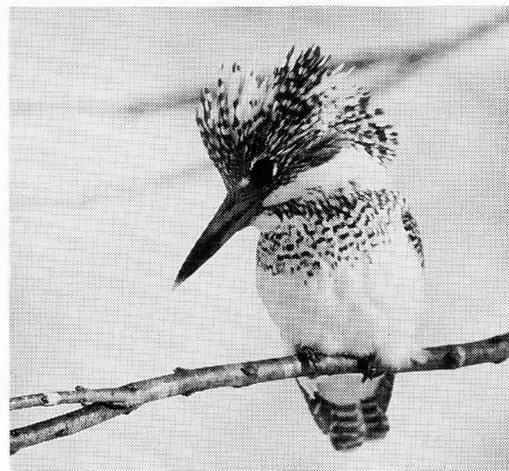
JRの鉄橋の側に来馬川が流れ込んでいます。この合流点の土手に数本の柳の大木があって、この土手にカワセミが営巣したことがありましたが、数年前にこれらの木は1本残らず伐採され、以来カワセミは寄りつかなくなりました。来馬川の上流では、ヤマセミが繁殖しており、来福橋のらんかんに止ったこともあります。

河口から更に海上へ目を移せば、クロガモの大群、ビロードキンクロ、5月下旬には東に向うアカエリヒレアシシギの大移動も見られます。

リストにある山野の鳥の多くは、ダム周辺の森林を含めたものです。尚、特記事項として、ダムの上流でシノリガモが繁殖したこと、更に上流の絶壁には、ひとつがいのハヤブサが住みついており、毎年のように子育てをしています。



コチドリ 60.6



ヤマセミ

幌別川周辺の野鳥リスト

紙面の都合上種名のみを列記します。

「ワシタカ」 1オオタカ 2オオワシ 3オジロワシ 4
ケアシノスリ 5コチヨウゲンボウ 6ツミ 7トビ 8ノ
スリ 9ハイタカ 10ハチクマ 11ハヤブサ
「キジ」 12エゾライチョウ 13コウライキジ
「ハト」 14アオバト 15キジバト
「ホトトギス」 16カッコウ 17ジュウイチ 18ツツ
ドリ
「フクロウ」 19オオコノハズク 20コミミズク 21コ
ノハズク 22フクロウ
「ヨタカ」 23ヨタカ
「ブッポウソウ」 24アカショウビン 25カワセミ 26
ヤマセミ
「キツツキ」 27アカゲラ 28オオアカゲラ 29コゲラ
30ヤマゲラ
「アマツバメ」 31アマツバメ 32ハリオアマツバメ
「スズメ」 33アオジ 34アカハラ 35アトリ 36イワ
ツバメ 37ウグイス 38ウソ 39エゾセンニュウ 40エ
ゾビタキ 41エゾムシクイ 42オオジュリン 43オオヨ
シキリ 44オオルリ 45カシラダカ 46カヤクグリ 47
カワガラス 48カワラヒワ 49クイタダキ 50キセキ
レイ 51キバシリ 52キビタキ 53キレンジャク 54ク
ロジ 55クロツグミ 56コサメビタキ 57コマドリ 58
コムドリ 59コヨシキリ 60コルリ 61ゴジュウカラ
62サメビタキ 63シジュウカラ 64シマエナガ 65シ
メ 66スズメ 67セグロセキレイ 68センダイムシクイ
69タヒバリ 70ツグミ 71ツバメ 72トラツグミ 73
ニュウナイスズメ 74ノゴマ 75ノビタキ 76ハクセキ
レイ 77ハシブトガラ 78ハシブトガラス 79ハシボン
ガラス 80ヒガラ 81ヒバリ 82ヒヨドリ 83ヒレンジャ
ク 84ビンズイ 85ベニマシコ 87ホオアカ 88ホオジ
ロ 89マヒワ 90マミジロ 91ミソサザイ 92ミヤマカ
ケス 93ムクドリ 94メジロ 95メボソムシクイ 96モ
ズ 97ヤブサメ 98ヤマガラ 99ルリビタキ
「ペリカン」 100ウミウ
「コウノトリ」 101アオサギ 102アマサギ 103コサ
ギ 104ゴイサギ 105ササゴイ
「ガンカモ」 106ウミアイサ 107オオハクチョウ 108
オンドリ 109オナガガモ 110カルガモ 111キンクロ
ハジロ 112クロガモ 113コガモ 114シノリガモ 115
ヒドリガモ 116ピロードキンクロ 117ホオヅロガモ
118マガモ
「チドリ」 119アカエリヒレアシシギ 120イカルチド
リ 121イソシギ 122ウミネコ 123オオジシギ 124オ
オセグロカモメ 125カモメ 126キアシシギ 127キョ

ウジヨシギ 128コチドリ 129セイタカシギ 130セグ
ロカモメ 131ミツユビカモメ 132メダイチドリ 133
ヤマシギ 134ユリカモメ

以上134種を数えましたが、残念なこともあります。
かつて幌別川周辺にあった湿地には、クイナやバンが繁
殖していましたが、ほとんど埋立てられ、ミズバショウ
と共にその姿を消しました。

追伸、最近になって、幌別川ファンクラブとも云える
「幌別川を育てる会」が市民有志50名によって旗揚げし
ました。きっといい結果が生れることでしょう。

〒051 室蘭市新富町1-8-12



〔鶴川〕

平成5年8月29日(日)

平成5年9月12日(日)

旅の途中、干潟や牧場で採食す
るシギ・チドリ等を観察します。
長靴が必要でしょう。

集合=9:30 JR鶴川駅前

交通=道南バス(浦河行)、札幌駅発8:00、鶴川駅通
下車

〔鏡沼・宮島沼〕平成5年10月17日(日)

宮島沼はガン・カモが休息し、特にマガンの群が有名で
す。鏡沼はカモ、カイツブリ等が真近に見られます。

集合=10:00 大富会館前

交通=①中央バス、岩見沢ターミナル発(月形行)大富
農協下車、徒歩15分

②JR石狩月形駅より徒歩40分

(駅前よりバスあり)

〔野幌森林公園〕平成5年10月24日(日)

紅葉を楽しみながらの落ち着いた探鳥会です。

集合=9:00 大沢口駐車場入口

交通=夕鉄バス(文京台線)、新さっぽろ駅発、大沢公
園入口下車、徒歩5分

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

平成5年9月19日(日)

平成5年10月3日(日)

集合=9:00 大沢口駐車場入口

○いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。

○昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。

○探鳥会の問合せは、011-831-8636 戸津宅まで。

平成5年度総会報告

日 時：平成5年4月17日(土)午後2時～4時

場 所：札幌市民会館

柳沢会長のあいさつのあと、議長に小堀煌治氏を選出し審議が行われ、原案どおり可決された。

<議 事>

1 平成4年度事業報告

(1) 総 務

ア 新年野鳥講演会の開催

(5.1.9、札幌市女性センター)

イ 野鳥写真展の開催

- ・北海道電力エレナードギャラリー

(4.5.6～4.5.12)

- ・たくぎん自動サービスフロア (4.5.13～5.27)

ウ 愛護会名入りカレンダーの作成

エ 野鳥だよりの発送 (88～91号)

オ 定例幹事会の開催 (5月を除き毎月1回開催)

カ 傷害保険の更新

(2) 広 報

野鳥だよりの発行 (88～91号)

(3) 探 鳥

探鳥会の開催 (19回、721名)

2 平成4年度会計報告

3 平成4年度会計監査報告

佐々木武巳氏から、適正に執行されている旨の報告があった。

4 平成5年度事業計画

(1) 総 務

ア 新年野鳥講演会の開催 (1月)

イ 野鳥写真展の開催

- ・たくぎん自動サービスフロア (5.7～5.31)

- ・北海道電力エレナードギャラリー(8.4～8.10)

ウ 野鳥だよりの発送 (92～95号)

エ 定例幹事会の開催 (5月を除き毎月1回)

オ 傷害保険の更新

平成4年度決算書

(収入の部)

区 分	決算額(A)	予算額(B)	増 減 (A-B)	摘 要
繰越金	205,058	205,058	0	
個人費	499,500	630,000	△ 130,000	333人(平成5年度以降の前受分を含む)
団体費	0	13,500	△ 13,500	3団体
寄付金	12,000	10,000	2,000	梅木氏他
参加費	51,000	50,000	1,000	新年懇談会、藤の沢探鳥会
売上金	277,242	250,000	27,242	野鳥だより、カレンダー、ネクタイピン他
雑収入	3,627	9,442	△ 5,815	利息
合 計	1,048,427	1,168,000	△ 119,573	

(支出の部)

区 分	決算額(A)	予算額(B)	増 減 (A-B)	摘 要
印刷費	361,530	550,000	△ 188,470	野鳥だより(4回発行)
通信費	159,900	170,000	△ 10,100	だより発送費他
会議費	79,827	90,000	△ 10,173	幹事会、総会等
消耗品費	8,300	10,000	△ 1,700	コピー、事務用品
交通費	55,500	60,000	△ 4,500	だより発送、幹事の交通費
報償費	79,370	90,000	△ 10,630	事務所謝礼他
雑 費	58,306	60,000	△ 1,694	障害保険、写真展他
予備費	0	138,000	△ 138,000	
合 計	802,733	1,168,000	△ 365,267	

(収支の部)

(収入) (支出) (残高)
1,048,427 - 802,733 = 245,694

内訳 会費仮受分 63,000
繰越金 182,694

- (2) 広報
野鳥だよりの発行(92~95号)
- (3) 探鳥
探鳥会の開催(19回)
- 5 平成5年度予算
- 6 その他
2年後の創立25周年の記念事業について、プロジェクトを組み、検討していったらどうかという提案があった。(幹事会で改めて話し合っていく。)

- 三、三船幸子、村野紀雄、森田新一郎、矢野玲子
- 探鳥幹事 ○竹内 強、井上公雄、大野信明、千葉 広、戸津高保、富川 徹、富田寿一、中野高明、永島良郎、山田良造、渡辺俊夫
- 広報幹事 ○泉 勝統、赤石誠二、白澤昌彦、武沢和義、道川富美子
- (○印は各担当代表者)

7 役員選出
今野弘氏が退任し、森田新一郎氏が新たに選任された。(他の役員は留任)

- 会 長 柳沢信雄
副会長 小堀煌治
監 事 大坊幸七、佐々木武巳
代表幹事 白澤昌彦
会計幹事 ○大町欽子、霜村耕一
総務幹事 ○渡辺紀久雄、渋谷弘子、清水朋子、野坂英

平成5年度予算書

(収入の部)

項目	前年度 予算額	予算額	摘 要
繰越金	205,058	245,694	会費仮受分を含む
個人会費	630,000	639,000	1,500×426人
団体会費	13,500	13,500	4,500×3団体
寄付金	10,000	10,000	
参加費	50,000	50,000	新年懇談会、 藤の沢探鳥会
売上金	250,000	220,000	野鳥だより、 絵はがき他
雑収入	9,442	4,806	利息
合 計	1,168,000	1,183,000	

(支出の部)

項目	前年度 予算額	予算額	摘 要
印刷費	550,000	550,000	野鳥だより(4回)、封筒
通信費	170,000	170,000	だより発送費 他
会議費	90,000	90,000	総会・幹事会 他
消耗品費	10,000	10,000	コピー、事務用品
交通費	60,000	70,000	野鳥だより発送、 探鳥会幹事用等
報償費	90,000	90,000	事務所謝礼 他
雑 費	60,000	70,000	障害保険、写真展 他
予備費	138,000	133,000	
合 計	1,168,000	1,183,000	

※ 会員数

項 目	3.4.1	4.4.1	5.4.1
個人会員数	432名	423名	426名
団体会員数	3団体	3団体	3団体

まえがき

エゾライチョウはキジ目の1種で、日本では北海道だけに生息する森林性の鳥です。昔から狩猟鳥としてよく知られていますが、最近では捕獲数が少なくなってきています。その理由の一つとして、生息数が減少していることが考えられますが、その原因は明らかではありません。エゾライチョウにかきらず、多くの野生動物の保護・管理のためには、生息数や生息環境の現状を正確に把握すること、減少や増加の原因を明らかにすること、その上で適切な対策をたることが必要です。

北海道は1990～1992年度に、エゾライチョウの保護・管理のための基礎調査として、生態や生息状況に関する調査を行い、その結果を「野生動物動物分布等実態調査報告書-エゾライチョウ生態等調査報告書-」として1993年3月に発表しました。この報告書をまとめるに当たっては、エゾライチョウの観察記録や狩猟で捕獲した個体の提供など、多くの方々の協力をいただきました。これらの方々へ調査結果の概要をお知らせするため、報告書のなかから、送っていただいた資料にもとづいてまとめた結果を要約し、この小冊子を作成しました。

エゾライチョウの1年の生活

林道を歩いていると、ときどきエゾライチョウを見かけるところがあります。1羽のこともあればつがいものもあり、夏には親子連れ数羽の群れでいることもあります。このような群れの大きさは、1年のうちでも季節によって違います。その状況を、北海道各地で2～12月に得られた260例近くの観察記録から明らかにしてみました。

4月には単独または2羽でした。ササやぶや道端などから急に飛び立ったときには雌雄の識別ができないことがありますが、2羽で性別がはっきりした場合は全て雄と雌という組み合わせでした(表1)。5月にも単独か2羽でしたが、70%が単独で、つがいでいるのは少なくなりました。6月になると、単独や2羽のほかには家族群が見られるようになり、5～6月に1羽でいる場合は全て雄でした。4月は繁殖期の始まりで、つがいでいることが多いでしょう。5月下旬から6月中旬にかけては表1. エゾライチョウの群れ構成の季節変化

	月											
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
成鳥・成鳥大の個体												
1羽: 雄	2	4	5	15	5	2	3	1	6	19	2	
雌	1	0	1	0	0	2	0	0	3	5	1	
齢・性不明	3	3	2	8	8	11	5	16	23	9	0	
2羽: 雄+雄	2	0	9	9	2	0	0	0	3	7	3	
雄+雄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
雄+雌	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
齢・性不明	2	0	2	1	5	2	0	0	0	2	0	
3羽以上	0	0	0	0	0	0	4	0	3	5	1	
雌+幼鳥	0	0	0	0	7	8	6	0	0	0	0	
幼鳥1羽	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	
2羽以上	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	0	

産卵・抱卵期で、雌があまり見られなくなり、主に雄だけが観察されたと思われる。幼鳥を連れだした雄が見られたのは6～8月です。6月の家族群は16日以降に見られるようになりますが、この頃の幼鳥はいずれも小さく、早くてもこの頃に孵化するようです。幼鳥の数は6～8羽で、平均6.7羽でした。7月の幼鳥は雄の半分くらいか、それよりやや小さいくらいの大きさで、数は2～5羽で平均4.1羽と6月より少なくなりました。これは小さな幼鳥が大きくなるまでにたいぶ死亡からでしょう。8月に家族群が見られたのは中旬までで、幼鳥はいずれも雌よりやや小さいくらいの大きさになっており、数は1～7羽、平均4.1羽で、7月とかわりありませんでした。8月下旬になると、幼鳥はほぼ親と同じ大きさになるので、群れていても家族かどうかの

判別は難しくなります。

9月に入ると家族群は見られなくなり、全て単独でした。またこの頃までに幼鳥は体の色も親とほぼ同じになっており、成鳥との判別は難しくなります。10月には、単独個体のほかに群れも見られるようになり、3月までほぼ同じような状況が続きました。

以上に述べた群れの大きさの季節変化から、エゾライチョウの1年間の生活を次のようにまとめることができます(図1)。4月にはつがい形成期、5月前半は産卵期でまたつがいでいるが、後半の抱卵期にはいと、雌は単独となるようです。6月中旬からは家族群と単独雄とに分かれ、8月末から9月上旬にかけて家族群が解消します。夏の間雌が家族群にいる例は一度も観察されませんでした。雄が抱卵



図1. エゾライチョウの生活の1年

を始めると、つがいは解消されるようです。9月には主に単独であり、10月から一部の個体は群れとなりますが、秋～冬の群れの大きさは家族群より小さくなります。この秋・冬の単独または群れ生活は3月まで続きます。

エゾライチョウはユーラシア大陸にも広く分布していますが、このような1年間の生活はヨーロッパで見られるものとほぼ同じです。ただ、アジア北東部では冬に十数羽という大きな群れが観察されますが、北海道では最大でも5羽の群れでした。

秋・冬の食性

鳥類が食べた食物は胃に入る前、一時そ嚢にたくわえられます。食物がそ嚢にある間は、まだ消化されていませんので、この内容を調べるとなにを食べていたかわかります。この調査では、狩猟期(10～1月)に北海道各地で捕獲されたエゾライチョウのそ嚢内容を分析しました。そ嚢内容物の湿重量は0～35.3gの範囲で、重い例は秋にヤマブドウの漿果を食べたものでした。エゾライチョウの体重は350～400gです。山食べたときの摂取量は、体重の10%近くにもなるわけです。

10月には、落葉広葉樹の冬芽、漿果、草本(シロツメクサ)、草本(イネ科)の種子、昆虫(小型鞘翅類)で、最初の三つのグループがよく見られました。11月には、10月とほぼ同じで、冬芽、漿果、草本(シロツメクサ)、草本(クダリ)の種子で、このうち冬芽と漿果がとくに多く見られました。12月には、冬芽と漿果が非常に多くなり、シラカンバの花穂と木の種子(ヤマウルシ)も見られるようになりました。1月の内容物は12月と大体同じでしたが、冬芽の見られる割合が高くなりました。落葉広葉樹の冬芽は、ヤナギ類(花芽も含む)、カンバ類(シラカンバ、ダケカンバ)、ホウノキ、サクラ類(エゾサンザシ、アスキナシ)、ナナカマド、イヌエシ、ツリバナ、イタヤ、ツツジの1種、アオダモなどでした。このうち多く見られたのはカンバ類(27%)で、次いでサクラ類(17%)、イタヤ(13%)でした。漿果はヤマブドウ、サルナシが主で、このほかにツルミドモドキやドリギもありました。

エゾライチョウは春から秋にかけて、昆虫のような動物性の食物を食べますが、その量はあまり多くないようです。主な食物は、草や樹木の芽ばえ、新葉、漿果、種子、冬芽で、とくに秋にはヤマブドウやサルナシのような漿果、冬には落葉広葉樹の冬芽が重要であるといえるでしょう。

表2. 秋・冬のエゾライチョウモ森内容物の乾重量(平均値と範囲、n)と出現頻度(%)

月	調査数	モ森内容物						
		冬芽	尾状花序	漿果	木本種子	草本葉	草本種子	昆虫
10	10	0.20		0.55		0.21	0.01	00.1
		0.1-0.4 (50)		0.5-2.6 (50)		0.1-1.2 (40)	0.1 (10)	0.1 (10)
11	9	0.48		0.63		0.01	0.01	
		0.1-1.6 (56)		0.5-2.2 (67)		0.1 (11)	0.1 (11)	
12	6	2.22	0.03	3.07	0.82			
		1.6-5.4 (83)	0.2 (17)	0.1-8.0 (83)	1.8-3.1 (33)			
1	8	2.53	0.14	0.86				
		0.5-10.0 (88)	0.4-0.7 (25)	1.7-13.2 (25)				

年齢別調査と年齢別材料の反

野生動物の年齢構成を知るためには、まず年齢を調べなければなりません。自然条件下で生活している鳥の年齢を知る方法は、骨にできる年輪、頭の骨の厚さ、羽毛の模様を調べるなどいろいろありますが、種によって最もよい方法を見つける必要があります。エゾライチョウでは、飼育で年齢のわかっている個体を使い、頭の骨の厚さで年齢を明らかにできるかどうかを調べました。その結果、頭骨の頭頂部の骨の薄い部分が1歳未満では大きく、1歳以上になると小さくなることで区別できることがわかりました(図2)。

そこでこの方法を用いて、狩猟期に捕獲されたエゾライチョウの年齢を区分したところ、1歳未満が77%、1歳以上23%でした。1歳以上では、嘴にできる年輪でさらに詳しく年齢がわかりますが、1歳以上があまり多くないので、実用上は1歳以上をさらに細かく区分しなくてもよいでしょう。

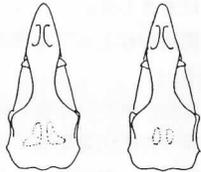


図2. エゾライチョウの頭骨。
1歳未満(左)では頭頂部の含気部が大きい。

この他、風切羽の縞模様の数でも1歳未満・以上を区別する方法がありますが、これについては今後検討する予定です。

資料提供者: 有馬健二、泉勝統、梅森茂利、大畑孝二、大本正美、大森政春、熊谷良雄、黒沢信道、小助川福蔵、佐々木明、芝野伸策、佐藤学、佐藤満、高橋松太郎、竹内喜代治、竹沢秀二、田中次男、田辺至、主田克巳、富川徹、新友博、引地安久、広沢利雄、広川淳子、藤沢春男、藤部政吉、富士元隆二、保坂隆昭、本北徹、前田英次、柳川保、松山森、三浦圭、道川富美子、道場優、箕田光真、森田忠勝、山内賢、山本一、山本恒雄、鷺田博幸

お問い合わせ

エゾライチョウの研究は今後も継続しますので、資料をお送り下さい。

★野鳥観察をする方へ★ 観察記録があればお送り下さい。

1. 場所(地名)
2. 年月日(年月だけでもよい)
3. 羽数
4. 環境(常緑針葉樹林、落葉広葉樹林、針広混交林、カラマツ林など)
5. 性別、成鳥か幼鳥かの区別
6. その他気のついたこと(樹上で餌をとっていたなど)。

上の項目全部がわかっていなくても、わかる範囲で結構です。

★送り先: 080帯広市稲田町 帯広畜産大学野生動物管理理学研究室
藤巻裕蔵



野幌森林公園探鳥記

5. 4. 18

森田 新一郎

この日の探鳥会は、寒冷前線が本道を通過するという生憎の天候であった。然し、園内にはエゾエンゴサクやミズバショウ、ザゼン草が既に花をつけていた。木々の梢も芽のふくらみで混んできている。

探鳥に入る前に井上幹事さんから「もうそろそろ夏鳥たちが入って来る時季なので、今日あたり或いはアオジの初啼きが聞かれるかも知れません」という話があった。

スタートして直ぐに、コゲラとアカゲラに会う。ヤマゲラは声のみ。松川の池や大沢の池は雪融け水を満々とたたえ、そこにカイツブリ、マガモ、キンクロハジロが来ていた。池の林の上をアオサギが三羽。昼食後の園地の近くにキセキレイが数羽。野幌でこの鳥に会うのは珍しいことである。「奇跡」みたい。

最近、その都度目新しいP.T.Oのもとでのバードウォッチングが盛んに行われるようになった。しかし「愛護会」は、20有余年に亘り野幌をベースに、鶴川、ウトナイ湖、植苗、福移、小樽港と時季を定めて野鳥を観察し、記録し続けて来ている。これは大変な「事業」だと思ふ。それぞれの野鳥観察の場所は、都市開発や環境破壊のなかで狭げめられている。野幌とても亦、例外ではあり得なくなってきた。それらの状況変化の中で、執拗なまでに「ここに来る野鳥たち」の飛来を観察し続ける。そこで記録し続けることは「愛護会」が自ら課した崇高な目標であると感じざるを得ないのである。

〒060 札幌市中央区北4条西16丁目

〔記録された鳥〕カイツブリ、アオサギ、トビ、コガモ、マガモ、キンクロハジロ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ツグミ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、シメ、ハシブトガラス、以上26種

〔参加者〕高梨香織・みお、森田新一郎、富田寿一、小野木弘司・幸子、佐々木友子、今野弘、鳴海孝、久田伸一、野坂英三、清水朋子、氏家慶子、永島良郎、香川稔、鎌田玲子、大西典子、河島弘、戸津高保・以知子、後藤義民、牧野洋子、栗林宏三、渡辺爽子、井上公雄 以上25名

〔担当幹事〕井上公雄、野坂英三

森林公園での探鳥会

5. 2. 14 阿部 泰子

野幌森林公園といえば、我家から車で5分程の最も、みじかな散策コース。四季の草花や小鳥に出会いたくて夫と歩きはじめて三年ほど。日曜日には「チョット行ってくるか」の合い言葉で双眼鏡を片手に、フラッと出掛けてます。野鳥のさえずりに樹上をあおいで鳥の姿を探したり、又道々の小さな草花に目をとめてしゃがみこんでみたり、葉の茂った夏は、緑のシャワーを身にいっぱい受けて歩くのも気持ちいいし、雪が降れば、歩くスキーで、雪の上の動物の足跡を見つれたり、樹木に咲いた雪の花の美しさに見とれたりと一年中を通じて楽しんでおります。

鳥の鳴き声といっても、ウグイス、カッコウ、スズメ程度にしか区別がつかず、昨年の冬に一度、木をつつく音で気がつくと、幸運にも近くの木に「アカゲラ」がとまっていました。しばらくクギ付けになってその様子見ていました。まさにビギナーズラッキーだったのでしょいか。それ以来、声のみだった野鳥も、姿がみたくなって、二度目を期待して出掛けているのです。一日中降りしきる雪の中での探鳥会は、まるで雪中行軍のようで一列になって歩いていると、頭上で鳴き声をした。野鳥の会の方々のすばやい反応と識別にはさすがと思いました。まずはよく鳴き声する方に耳と目を向け、肉眼で探したら目を動かさずに双眼鏡を目に近づけてのぞく。そんな基本的な動作を教えていただき、やっと「ゴジュウカラ」を見ることが出来ました。又エゾリスが木の上で一生懸命になって何かを食べているのを見る事も出来ました。

この厳しい寒さと雪の中で鳥や動物達はどんな暮らしぶりなのでしょう。又どんな生活のチエがあってこの冬を越せるのでしょうか。楽しい春のために、じっと耐えているのでしょうか。この鳥達やエゾリスの一コマにも、新ためて自然の仕組みと働きにおどろかされました。初めての探鳥会で、私はバードウォッチングどころか、ベテランウォッチャーの方々のウォッチの仕方をウォッチした次第でした。本当に有難うございました。

〒004 札幌市厚別区厚別北1条2丁目8の1

〔記録された鳥〕コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマゲラ、ゴジュウカラ、ウソ、カケス 以上14種

〔参加者〕野坂英三、永井タキ子、石橋和子、今泉秀吉、阿部英三・泰子、栗林宏三、富川徹、香川稔、伊東裕二、戸津高保・以知子、白沢昌彦、柳沢信雄、五十川裕弘、犬飼弘 以上16名

〔担当幹事〕富川徹、戸津高保

円山探鳥会 バードウォッチングに行つて

5. 3. 7 城戸 愛美

私達、きょうだいは、今日初めてのバードウォッチングに参加しました。三ヶ月前に話しを聞き楽しみにしていました。その日の朝は天気が良く、地下鉄にのり集合場所に着くと、すでに双眼鏡を首からさげ多くの人達が出発の準備をしていました。

係の人の説明のあと観察が始まりました。

確認された野鳥の種類は、コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマゲラ、ゴジュウカラ、アトリ、ウソ、スズメ、ハシブトカラス、ハシボソガラス、ドバト、シメなど16種類でした。

絵でしか見たことのなかった「シメ」を、どうしても見たかったのが観察され、とてもうれしかったです。

それからハシブトカラスとハシボソカラスの見わけもつくようになり、今度うちの裏山で調べてみたいと思います。

最後に、係の人達、参加したみなさんには、いろいろな説明やお話しをたくさん聞き、とてもやさしくしていただきました。

観察中はとっても寒かったですが、すごく楽しかったです。

また、きかいがあれば参加したいと思います。

帰りに円山動物園により動物、植物、鳥などを見ながら楽しい一日が終わりました。

〒004 札幌市厚別区厚別町上野幌826

〔記録された鳥〕コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマゲラ、ゴジュウカラ、アトリ、ウソ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 以上16種

〔参加者〕杉田範雄、富田寿一、吉田司・行子、菅原哲夫、渡辺弘毅、矢野玲子、森田新一郎、大町欽子、鎌田玲子、米重勝彦・紀枝子、泉勝統、井上公雄、佐々木武巳、武沢和義・左知子、今野弘、佐々木友子、難波茂雄、山田甚一・れい子、柳沢信雄、城戸雅司・愛美、戸津高保、野坂英三、山田良造、栗林宏三、渡辺勘治、利満輝明・みえ 以上32名

〔担当幹事〕武沢和義、矢野玲子

ウトナイ湖探鳥会に参加して

5. 3. 21 石橋和子

湖面を渡る風はまだ冷たいものの、日差しは春。絶好のバードウォッチング日和。北帰行中立寄った水鳥達の観察会がウトナイ湖でありました。

私はバードウォッチングを始めて約一年。まだまだ鳥達との新しい出会いが続き、新鮮な喜びを味わっています。自然の中で山野草を観るのは子供の頃から好きだったので、何か野鳥にはほとんど関心がなく、シジュウカラ、ハシブトガラ等の名前を知ったのもつい二・三年前です。ふとしたきっかけで双眼鏡を買い求め、野鳥をながめるうち、その姿の美しさ、動作の愛らしさにとりつかれてしまいました。またこの会の一人で参加しても淋しくない和気あいの楽しい雰囲気にかかれ、熱心に参加するようになった次第です。

この日ウトナイ湖は鳥の種類もあまり多くなく、めずらしい鳥にも会えなかったようですが、氷上で休むおなじみのオオワシやオジロワシ、湖上を飛び回るヒシクイやカモ、ハクチョウ、またパンダのような顔をしたミコアイサ等をながめ楽しみました。別のパーティも来ていましたので、混雑しないうちに早めにウトナイ湖ネイチャーセンターに立寄り、バードテーブルに集って来ているアトリ、シメ、シジュウカラ等を観察した後、北大苫小牧演習林に場所を移しました。お目当てのミヤマホオジロやカシラダカは訪れた時間帯（お昼頃）が悪かったのか、大勢で押しかけたのが良くなかったのか、姿が見られませんでした。その変わり、バードテーブルで無心にえさをついばむアトリをじっくりと観察しました。昼食後散会。情報と好天につられ、帰途鶴川、勇払方面に向われた方もあるようです。

なお、昼食をとるのも忘れ、演習林の奥の方に行かれた方はミヤマホオジロ、キバシリ、オオアカゲラ等にも会われたそうです。

〒066 千歳市里美4丁目5の2

〔記録した鳥〕

ウトナイ湖 アオサギ、トビ、オジロワシ、オオワシ、ノスリ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、ヒシクイ、マガモ、オナガカモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、コウライキジ、シロカモメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、シメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ヒドリガモ 29種

北大演習林 オオハクチョウ、ヒドリガモ、マガモ、オナガカモ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、キバシリ、アトリ、スズメ、カケス、ミヤマホオジロ、ハシボソガラス 18種

〔参加者〕石橋和子、吉田司・行子、渋谷信六・弘子、榊川保・弘子、服部光博・息子さん2人、平山浩哉・冬緒、浜田強、広川淳子、内田秀満・淳子、岩間永里子、山田良造、久田伸一、須藤昌子、早川いくこ、宮田貞子、永島良郎、羽田恭子、白澤昌彦、富田寿一、佐藤ひろみ、森田新一郎、福田研也、泉勝統、野坂英三、道場優、本橋孝之 以上33名

〔担当幹事〕山田良造、富田寿一

宮島沼の水鳥

93. 4. 25 小野木 弘 司

今回、宮島沼の探鳥会に参加しました。元来野鳥に関しての知識の無知な私達夫婦（昨年の秋、野幌森林公園の探鳥会が始めて）に突然の感想文をと指名され慌て、戸惑いました。

前日の天気予報では、全道的に、荒模様で、雨から雪になると聞かされていましたが、宮島沼に一度も行った事のない私達です。少し位いの事では行く予定をしていました。前日、戸津さんのお宅に電話をして、道順をお聞きし、なんとか、晴れてくれる事を祈りましたが、やはり寒く曇りの降る、悪天候でした。でもこの日は宮島沼に行こうと予定をしていましたので（一人で家に居るのが無理な父親を、土曜日の午後からショートステイにお願いをして、やっとの思いなんです）私の気持は複雑なのですが、晴天でした。

三十分以上も早く着いたのですが、沼には雁は一羽もいなく、探鳥会の参加者も少ない雨の沼でした。

オオハクチョウ、コハクチョウ、コブハクチョウ、オナガガモ、キンクロハジロ等が朝霧の沼の野鳥達でしたが、10時から美唄市教育委員会主催のバス一台で来ていました一般市民の人達と一緒にさせていただき、大富会館の二階で、中学校の元教員であり、雁の保護の会の草野貞弘先生からの、宮島沼の水鳥達についてのお話しを、お聞きしました。

美唄原野の生い立ちから、沼の地理的位置、そして国の天然記念物マガンが、美唄西部の宮島沼に、日本で冬越しした殆んど全部が、集結してから、周りの水田地帯に落ちている餌を食べて五月初旬、遠くシベリアに旅立つ迄のマガンの生活の様子等々とても詳しい、良いお話しを聞きました。その後「真雁の郷」のビデオを観せていただきました。天候が悪くても、室内での学習は私達にとって本当に勉強になりました。

その後、少人数で車で移動して10分位の田圃近くで真雁が、編隊を作り飛んでいる様子を見ながらの昼食でした。そして又、チョーゲンボウが電線に止まっている姿を、先輩の人達にお教えていただいて、双眼鏡を覗い

た時は感動しました。その後、野鳥のチェックをしましたが、27種前後の鳥のうち、いつもながらですが、私の確認は半分でした。

午後からどうしても沼に戻る真雁を見たくて帰途は二人だけの探鳥会として宮島沼に行く途中の田圃の落ち穂を食べている真雁の群を発見して、夢中で双眼鏡を覗きました。

そのうち空も明るくなり、二時近くだったか、なんと沼の右方向の空から真雁の二十羽位いの群が、沼をめざしてやって来て沼に降る様子等を見る事が出来、とても感動しました。一時間位沼を見つめるうちに少なくとも4~500羽近く来てくれたのでしょうか。私達の念願を叶えてくれました。少しずつ探鳥会への参加の回数を多くして野鳥達との出会いを求めて、たのしい人生折り返りの後半生を送りたいと思います。どうか皆様、よろしくお願い致します。

〒004 札幌市厚別区厚別東5条2丁目1-10-205

〔記録された鳥〕カイツブリ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガン、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、シマアジ、カモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、ノビタキ、ツグミ、ヤマガラ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 以上27種

〔参加者〕野坂英三、小野木弘司・幸子、山田良造、千葉広、佐藤辰雄・シミ子、大西典子、鎌田玲子、和久雅男、佐藤幸典、星子廉彰、草野貞弘 以上13名

〔担当幹事〕山田良造、千葉広

野幌森林公園の探鳥会に参加して

93. 5. 9 今村三枝子

1年程前から、野鳥に心を引かれるようになり、葉の生い茂る前に、ぜひ探鳥会に参加したいと思っていたところ、知人よりウォッチングガイドを頂き、この日の集りを知ることが出来た。集合場所の大沢口駐車場を電話で詳しく教えて頂き、当日は風の吹く中、1時間余り自転車を走らせ9時ギリギリにやっと到着する。いきなり、UHBのスーパータイムで顔なじみの村川さんが、挨拶をされ「テレビと同じ顔だ」と妙に感心する。いよいよ公園内に入り、探鳥会の始まりとなったが、鳥を見ることに不慣れな上、くもり空も手伝い、「イカルだ」「ヤマガラだ」とワクワクしながら双眼鏡を覗いても、黒っぽい鳥にしか見えずつかりする。しかし、皆さんが次々と見付けては、教えてくれるので、目も徐々に慣れたの

か鳥達本来の姿が見え出して来た。私が確認出来たのは、15種だったが、うち6種の鳥達とは初めての出会いだった。今まで、本の中だけでしか知らなかった鳥達が目の前にいるということは、なんとも言いようのない嬉しさで、じっくり観察出来た後は、友達になれたような、親しみを覚える。その中でも、美しいオレンジ色をじっくり見せてくれたキビタキは印象的である。

この日、2度目に会ったオオルリに「わー、きれいだ?!」と、興奮しているすぐ側で、コゲラがその騒ぎを我感せずと、チョコチョコ動き廻っている姿も実にかわいい。夏には水量が減るといって池で、つがいのオシドリが、水面に横たわる木に並び、片足を隠して、まどろんでいる姿は、まるでその廻りだけ時間がゆったりと流れているようで、とても美しかった。野鳥を探しながら歩いていると道端には、ミズバショウ、ザゼンソウ、ニンソウ、エンレイソウなどなど、春ならではの野草達が嬉しそうに咲いてる。鳥も草花も水も、そして人間も等しく自然の一部なのだ、改めて実感させられた。

少しでも多くの人達が、自然との一体感を感じることが出来たら、自然破壊という問題も今とは違う形になるのかもしれない。

かわいい鳥達に出会え、素敵な春の1日を過ごさせて頂き、会員の皆さんに心より感謝したいと思う。

〒003 札幌市白石区東札幌2条3丁目4-10

〔記録された鳥〕37種 〔参加者〕40名

〔担当幹事〕野坂英三、永島良郎

鳥民日より

◆第2回野鳥写真展開催について

今年では会場の都合で5月と8月の2回に分けて実施

- 1) 開催期間 平成5年8月4日(水)~10日(火)
- 2) 会場 北電エレナードギャラリー
- 3) 写真提供者の方へ……前回の写真を取り変えたい希望の方は、7月30日まで下記にお届けください。
(003)札幌市白石区栄通8丁目3-11 柳沢信雄

◆会費(年1500円)の納入方法について(入会希望の方を含め)本年度及び前年度の年会費未納の方や入会希望の方は12頁の最下段に明記されている「郵便振替口座」に振込みください。(探鳥会の際の入金でも結構です)

編集後記……93年度第1回の野鳥日より、予定より遅れましたが、お届け致します。本年度で解任して戴くという事になって居りましたが、諸般の事情で、もう1年間、野鳥日より作りを続ける結果になりました。力不足の上、体調を崩したものですから、編集作業が遅れ申訳ありません。本年も叱咤激励ください。(泉)

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円 (会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1-18287

☎060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465